# 第２回 SAGAパラスポ 2026

・・・・・・・・公開録音【車いすバスケットボール】・・・・・・・・

●競技:車いすバスケットボール
●日程:10月4日(日)
●会場:唐津市文化体育館

## オープニング

１０月１７日、時刻は正午になりました。
こんにちは！ＤＪ ＹＵＹＡです。土曜日の朝、いかがお過ごしですか？
ここからの時間は、ＦＭ佐賀 特別番組　SAGAパラスポ2026「車いすバスケットボール」をお送りします。
この夜、１２：３０までお付き合い下さい。
SAGAパラスポは、佐賀県が開催に関係しているパラスポーツの全国大会で
昨年に続き、今年が２回目となります。
今月の「ゴールボール」を皮切りに、来年３月まで、全７競技・県内７つの会場で熱い戦いが繰り広げられています。
ＦＭ佐賀では、すべての会場で公開録音を実施。
私たちパーソナリティが各競技会場を回り、選手たちに熱いエールを送っています。
その２競技目が「車いすバスケットボール」。
簡単に競技を説明しますと、競技時の車いすを使ってバラバラバスケットボールでコートの広さ、リングの高さ、使用するボールは一般のバスケットボールと同じなんです。
「ダブルドリブル」はありますが、選手がボールをもって車いすを連続3回以上手で“漕ぐ”と「トラベリング」(反則)をとられます。
そしてバラ競技ならではの大きな特徴は、各選手に「持ち点」があること。
障がい程度毎に応じて選手１人ずつに1.0～4.5の持ち点が決められています。
そしてコート内の１チーム５名の選手の合計点が14点以内になるように編成しなければならないんです。
この持ち点制度を活かした絶密な攻防はもちろんハイポインターとローポインターの選手がお互いをカバーしながらプレイする姿は「車いすバスケットボール」ならではの見どころなんです。

そんな「車いすバスケットボール」競技は、今月１０月３・４日の２日間
唐津市文化体育館で開催されました。
ＦＭ佐賀では、この２日目の４・５時内に特設ブースを設け、選手・大会関係者、そして バラ競技を体験した方客様にお話を伺いました。

今日の特別番組では、その模様をお届けしていきます。
ＦＭ佐賀 特別番組 SAGAパラスポ2026「車いすバスケットボール」
この番組は「佐賀県」の提供でお送りします。

１０月３・４日、唐津市文化体育館で行われた「車いすバスケットボール」。
大会には、岐阜県・滋賀県・神戸市、そして九州内からは、地元佐賀県を はじめ鹿児島・熊本県西原チーム、宮崎県、大分県、福岡市ふくおかモンキーズ の７チームが参加。
２日間にわたる競技の結果、福岡市が３位、準優勝・大分県、そして 神戸市が見事優勝を果たしました。

### インタビュー 【神戸市チーム】



写真 左:植田選手　中央:吉野選手　右:パーソナリティ DJ YUYAさん

【DJ YUYA】まず特設ブースにお越しいただいたのは、神戸市チームから吉野好弘 あの しょうご選手と植田真悟(うえだ しんご)選手です。チームの特徴から伺いました。
【植田選手】平均年齢が結構高いチームなのですが、その分、熟練した合わせ方 をしり、スピードはそんなにないのですが上手さがありますね。速さや強さではなく、ごういったところがストロングポイントかなと思っています。
【DJ YUYA】佐賀で初の車いすたたかい。何度かいらっしゃっていると伺いますが、
【植田選手】いつの姿造りがめちゃくちゃ好きで、すごくおいしいんです。
【吉野選手】ケンサキイカはあんまり神戸では食べられないので、その後のグソの天ぷらも最高でした！
【DJ YUYA】 車いすバスケの見どころについて、上田選手いかがですか？
【植田選手】まさにここにいる２人がローポインター(２０)とハイポインター(４.５)なのですが、関わり合いによって戦術を変えたりいろいろなプレイをするので、そこが楽しくて面白いところです。また、車いす同士がガッチンガッチンとぶつかる格闘技のようなところもあるので、そういった楽しいコンタクトスポーツを観たいカは ぜひ、車いすバスケットを観ていただきたいです。
【DJ YUYA】佐賀で開催されたお気に参加して、どのような思い を持たれましたか？
【吉野選手】応援グッズを着ていただいてたりとか、エンブレムが置いてあったり、応援メッセージも書いていただいたりしていて、すごくバックアップ されて、こんなに応援されている大会もないのですごくうれしいですし、ぜひまた来年もイカを食べに来たいなという気持ちになりました。
【植田選手】イカかい～(笑)
【DJ YUYA】この時期は神戸市チームから吉野選手、植田選手のお2人にお越しいただきました。お二方どうもありがとうございました！
【吉野選手・植田選手】ありがとうございました！

### インタビュー【岐阜県チーム】



写真 左:深見選手　右:池戸選手

【DJ YUYA】ブースには岐阜県チームの選手がニ人お越しいただいております。
【池戸選手】静岡からきました池戸(いけど)です。よろしくお願いします。
【深見選手】同じく岐阜から来ました深見(ふかみ)と言います。お願いします。
【DJ YUYA】 ようこそ佐賀へお越しいただきました！岐阜県チームということで、どこ うてオク？大会ハイフォーマンスを観が楽しみです？
【池戸選手】そうですね。うちの深見のスピードで、かなり観客を盛り上げられたのではないかと思っています。
【DJ YUYA】大会の印象みたいなのも教えていただきたいのですが、池戸さんどうですか？
【池戸選手】結構も平成24年に岐阜国体があり、それからずっと岐阜チームで活動していますけど、皇の間わりでこうした大会が開催できるって事、バラスポーを知ってもらえるよう、すごく良いことだと思います。
【DJ YUYA】 深見選手はいかがですか？
【深見選手】昨日会場に到着した時に、ボランティアの(ヤガンティア)の皆さんがすごく温かく迎えていただいたり、いろいろ会話などの観客の皆様に助けられました。
【DJ YUYA】 車いすバスケの魅力とはプレイヤーのかから見る魅力みたいのを伝えるとすると？
【池戸選手】そうですね、それぞれの障がいの持ち点に応じて、役割やプレイ内容が変わってきますが、協力して1つのボールをコールになっぱる、そういった事を考えながらやっていることが車いすバスケボールの魅力だと思います。
【DJ YUYA】 深見選手どうですか？
【深見選手】障がいの軽いとか重いなんて話をよくするんですけど、どんな障がいを持った方でも同じコートで一緒にプレイできるっていうのは車いすバスケットボールだけではないかなと思っていて、そこがすごく魅力という分見どころというか、その障がいの差によってやる プレイが変わってくるので、そういったところを見ていただけるといいと思います。
【DJ YUYA】この後の試合の観戦をひより楽しみにしております。この時間は岐阜県チームから池戸選手、深見選手にお話しを伺いました。お二方どうもありがとうございました！
【池戸選手・深見選手】ありがとうございました！

### インタビュー【滋賀県チーム】

【DJ YUYA】ＦＭ佐賀 特別番組 SAGAパラスポ2026「車いすバスケットボール」。
今月３・４日、唐津市文化体育館で行われた大会の模様をお届けしております。
まずは最後に、神戸市、そして岐阜県チームのお話しをお聞きいただきました。
つづいても通信組「滋賀県チーム」。
代表して取材に入ってきて下さったのは、石田大也(いしだ・まさや)選手と清水千浪(しみず・ちなみ)選手。
幼い頃から活発だった清水選手は、中学時代は陸上、大学ではサッカーに打ち込み現役引退後はトレーナーとしてキャリアを積んでいました。
そんな清水選手に病魔が襲ったのは２０１２年。
「褐色細胞腫(かっしょくさいぼうしゅ)」という珍しがんと診断されました。
清水選手はこれら4月5時間の手術を乗り越えました。
車いすバスケットボール日本代表として、東京、そしてパリと２大会連続でパラリンピック出場を果たしました。

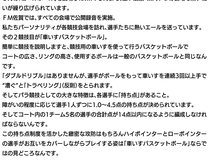


写真 左:石田選手　右:清水選手

【DJ YUYA】 同じ病気の方との交流もあるっていう話もお聞きしました。
【清水選手】そうですね。この病気自体がとても珍しい病気と言われていて、今回佐賀で初めて会いました。ずっとSNSでは交流があったんですけど、この歩少がんというのもレっかり知ってもらうために行動をされているかたとつながっていたんですけど、初めて作日会いして、楽しいバスケも観に来てくださったのかで、すごく来て良かったなと思っています。
【DJ YUYA】どうです？清水選手、今後の展望という分、今は車いすバスケのカレっかとも競技を歩やされているわけです。
【清水選手】車いすバスケも好きなスポーツの１つなので、これからも支援いろんなことやっていきたいと思っていますし、一緒にいる石田大也選手にも以前パリオリンピック 初めてやったりとかこれから頑張っていくぞっていう人のサポートになれたらいいなっていうのは今後思っております。
【DJ YUYA】 石田選手の脚中を押すモチベーションは何ですか？
【石田選手】清水選手がったから いろんな先輩方が一生懸命プレイされているので、その脚中を追っかけ一生懸命プレイしているような感じです。
【DJ YUYA】清水選手どうですかね？石田選手の今後について。
【清水選手】将来有望でしかないですね。私たちいつもみんまり一緒にプレイできないので、すごく自分の脚中を越えて、昨日は２時ぶーんとたたかた、やって小中でもコートとていろんな協議ができて、どんどん伸びていくなと思っておりますし期待しております。
【DJ YUYA】 石田選手どうですか？
【石田選手】そうですね、ゆくゆくは U-23とかそういうカテゴリーがあるんですが、そこを目指していけたらと思っています。
【DJ YUYA】 佐賀で行われました第２回SAGAパラスポ2026、振り返ってみて、どのような思い出になりましたか？
【石田選手】すごく良い大会だったと思います。本当に。
【清水選手】とてもスポーツ会大会で、運営の方々もいつも笑顔でなんか質問があったらすぐてくださるし、本当に良い大会で佐賀の方でずっと知り合いたったが来て下さって、メッセージをいただきました。
【DJ YUYA】そうなんですよね。清水選手の手元には応援バリセンが置かれていてメッセージが記されているのですね。
【清水選手】中には「あなたは私達の希望です。今、病気と闘っている仲間にエールを！」ということが記されていました。私は楽しくて励ましのためにもやっているのですが、こうやって同じ病気の方にもこういうエールメッセージをすることが自分たんだなという ことを改めて感じましたので、しっかりこれからも頑張っていきたいなと思っています。
【DJ YUYA】ありがとうございます。この時間お伝いしたのは滋賀県チームの清水千浪選手、石田大也選手でした。どうもありがとうございました！
【清水選手・石田選手】ありがとうございました！

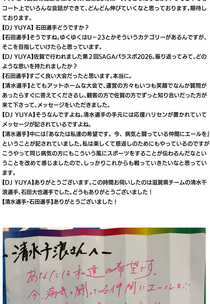



写真 清水選手がいただいたメッセージ

挿入歌　イロドリ　／　カノエラナ

【DJ YUYA】SAGAパラスポ2026「車いすバスケットボール」には、全国大会ということで、遠く岐阜、滋賀、そして神戸からもご応援に お越し頂きました。
どのチームの皆さんも、イカや海鮮、ちゃんぽんといった唐津・佐賀グルメを楽しまれていて、私たち佐賀人にとっても嬉しかったです。
お疲れしたのは、そんな唐津出身のシンガーソングライター、カノエラナさんで「イロドリ」でした。
ＦＭ佐賀 特別番組 SAGAパラスポ2026「車いすバスケットボール」。
今月３・４日、唐津市文化体育館で行われた大会の模様をお届けしています。

## インタビュー【佐賀県チーム】



写真 左：有賀さん　右：田中選手

【DJ YUYA】続いて地元・佐賀県チームから、お二人お迎えしております。それぞれ自己紹介をお願いしてもよろしいでしょうか。

【田中選手】佐賀県チームの田中柚彩（たなかなつき）と申します。よろしくお願いします。

【DJ YUYA】よろしくお願いいたします。そしてもうひとかた。

【有賀マネージャー】スタッフをしております有賀（ありが）ルミといいます。よろしくお願いします。

【DJ YUYA】よろしくお願いします。マネージャーの有賀さん、支える側としてどのようなところを意識していますか？

【有賀マネージャー】チームメンバーは10代から70代までと幅広いです。まとめるのはなかなか大変ですが、佐賀にもうひとつ「寛容」というテーマがありますので、そのチームと連携しながら佐賀県チームの練習を重ねています。

【DJ YUYA】田中選手、車いすバスケの面でもらいたいところを教えてください。

【田中選手】車いすバスケの魅力の一つとして、着者から距離者まで老若男女問わず誰でも参加できるスポーツなので、幼児見学や体験にお越しいただきたいです。

【DJ YUYA】有賀さん、この車いすと車いす用止めコンクリ台ちょきの衝撃あたいなものもすごいものがありますね。

【有賀マネージャー】そうです、初めて見たらの度だけに、とてもびっくりするし、エキサイトしすぎて転んだりとか、私んでも台分で立ちがとか、そういうふうな場面が見ることができてとても面白いと思いますし、さらに男性女性混じってプレイをしたり、選手同士に乗ってプレイすることもありますのでいろんな方が体験したり経験したりできる競技だと思います。

【DJ YUYA】地元・佐賀で開催されたということで、佐賀でチームを持つ人数としてどんな思いがありましたか？

【有賀マネージャー】けっこう学生さんとかが体験に来て「すごく楽しい！」と何度も練習に来てくれたりとか、チームに関わってくれたりするようなこともありますので、これを機に体験したり、見学に来たり、観戦したりしてもらいたいです。

【DJ YUYA】今後もあるんですか？

【有賀マネージャー】今後ですね、11月15日に「バラスポーツフェスタ」が白石台会育館で車いすバスケをはじめとくさんの種類のパラスポーツを体験していただけるというようで、ぜひみなさん、参加していただきたいと思います。台分が空に入った種目があれば、またあと続けていただけると思うのが、とても嬉しいです。事年度のみなの大会にも参加してもらうとか、この車いすバスケットボールがどんどんだめていってると思います。

【DJ YUYA】はい、ということで、この時間は佐賀県チームから田中柚彩選手、そしてマネージャーの有賀ルミさんにお話しを伺いました。お二方ありがとうございました！

【田中選手・有賀マネージャー】ありがとうございました！

## インタビュー【体験コーナー】

今年8月から来年３月まで、県内７つの会場で行われている、佐賀県独自のパラスポーツの全国大会「SAGAパラスポ2026」。

各会場では、競技の観戦・応援が出来るのはもちろん、毎月いろいろ福祉施設によるマルシェが出店して、小物やグルメなど、個性あふれる商品に出会うことが出来ます。

さらに、会場内には「パラスポーツ体験ゴーナー」が設けられています。

鹿津市文化体育館でも「車いすバスケットボール」はもちろん「フライングディスク」そして「ボッチャ」の体験ができて賑わっています。

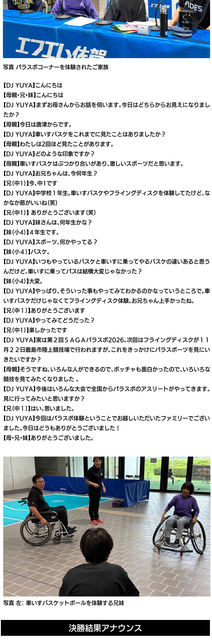


写真 パラスポコーナーを体験されたご家族

【DJ YUYA】こんにちは

【複数・父・娘】こんにちは

【DJ YUYA】まずお母さんからお話を伺います。今日はどちらからお見えになりましたか？

【母親】今日は鹿津からです。

【DJ YUYA】車いすバスケをこれまで見たことはありましたか？

【母親】わたしは2回ほど見たことがあります。

【DJ YUYA】どのような印象ですか？

【母親】車いすはこつからお思いでした。激しいスポーツだと思います。

【DJ YUYA】お兄ちゃんは、今何年生？

【兄（中1）】9、中1です

【DJ YUYA】中学何？年生。車いすバスケやフライングディスクを体験してたけど、なかなか筋がいいね（笑）

【兄（中1）】ありがとうございます（笑）

【DJ YUYA】お父さんは、何年生かな？

【妹（小4）】4 年生です。

【DJ YUYA】スポーツ、何かやってる？

【妹（小4）】バスケ。

【DJ YUYA】いつもやっているバスケと違いすに乗ってやるバスケの違いあると思うんだけど、乗いすでバスは結構大変じゃなかった？

【妹（小4）】大変。

【DJ YUYA】やっぱり、そういった乗もやってみたからのかなっていうところも、車いすバスケだけじゃなくてフライングディスクの体験、お兄ちゃん上手かった。

【兄（中1）】ありがとうございます

【DJ YUYA】やっぱりどうだった？

【兄（中1）】楽しかったです

【DJ YUYA】実は第２回５AGAパラスポ2026、3回はフライングディスクが１１月２２日鹿島市陸上競技場で行われますが、これをきっかけにパラスポーツを見にいきたいですか？

【母親】そうですね、いろんなんができるので、ボッチャも面白かったので、いろいろな競技を見てみなりをしたと、

【DJ YUYA】今後はいろんな大会で全国からパラスポのアスリートがやってきます。見に行ってみたいと思いますか？

【兄（中1）】はい、思いました。

【DJ YUYA】今日はパラスポ体験ということでお越しいただいたファミリーでございました。今日はどうもありがとうございました！

【母・兄・妹】ありがとうございました。

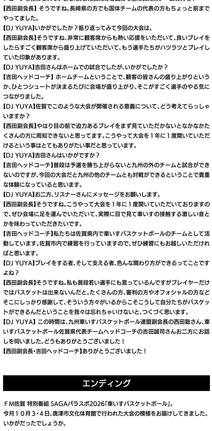


写真 左：車いすバスケットボールを体験する兄妹

## 決勝結果アナウンス

【三井ごさん】神戸市対大分県は、59対32、神戸市の勝利です！

よって、第2回SAGAパラスポ2026 車いすバスケットボール競技、チャンピオンは神戸市！ Congratulations!

そして準優勝は大分県です！両チームに大きな拍手をお願いいたします！

## インタビュー【競技関係者】

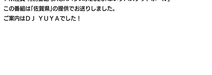


写真 左：九州車いすバスケットボール連盟副会長　西田さん
　　右：車いすバスケットボール佐賀県代表チームヘッドコーチ 吉田さん

【DJ YUYA】佐賀県独自のパラスポーツの全国大会「第２回SAGAパラスポ2026」。今月３４日、鹿津市文化体育館で行われた「車いすバスケットボール」には県者・国民・神戸という遠征組に加え佐賀をはじめとした九州内の合わせて８チームが参加。

選手はもちろん、指導者、そして競技関係者にとっても、実り多い二日間になりました。

【DJ YUYA】この時間、お二方ブースのだにお話しくださいました、自己紹介をお願いいたします。

【西田副会長】九州車いすバスケットボール連盟副会長をしております、長崎県に住んでおりますま西田と申します。よろしくお願いします。

【吉田ヘッドコーチ】佐賀県チームのヘッドコーチをしています吉田と申します。よろしくお願いします。

【DJ YUYA】さきほど、第２回SAGAパラスポ2026車いすバスケットボール競技が無事終了しました。お二方は配信の実況・解説などご担当されたの事でお疲れ様でした。

西田さんは、パリパラリンピック車いすバスケットボール女子日本代表のアシスタントコーチを務められていました。また長崎のご出身でご長崎県チームの方も？

【西田副会長】そうですね、長崎県の方でも国体チームの代表の方もちょっと前までやってました。

【DJ YUYA】いかがでしたか？振り返ってみて今回の大会は。

【西田副会長】そうですね、非常に観客席からも熱い応援をいただいて、良いプレイをしたらすごく観客席から盛り上がっていただいて、もう選手たちがパワフルにプレイしていた印象があります。

【DJ YUYA】吉田さんはホームでの試合でしたがいかがでしたか？

【吉田ヘッドコーチ】チームとしてはホームということと、観客の皆さんの盛り上がりというか、ひとつコートが決まるたびに会場が盛り上がり、そこがすごく選手のやる気につながりました。

【DJ YUYA】佐賀でこのような大会が開催される意義について、どう考えてらっしゃいますか？

【西田副会長】やはり目の前で迫力あるプレイを見て見ていただかないとなかなかたくさんの方に周知できないと思います。こうやって大会を１年に１度開いていただけることも大きいですし、今回の大会だとたくさんの方に思っています。

【DJ YUYA】吉田さんはいかがですか？

【吉田ヘッドコーチ】競技は千差を競うと少ないという九州の外のチームと試合ができないのですが、今回の大会だとたくさんの方のチームとも対戦ができるということで貴重な体験になっていると思います。

【DJ YUYA】お二方、リスナーさんにメッセージをお願いします。

【西田副会長】そうですね、こうやって大会を１年に１度開いていただいておりますので、ぜひ会場に足を運んでいただいて、実際に目で見ていただく体験する良い場となりを持っていただきたいです。

【吉田ヘッドコーチ】私たちは佐賀県内で車いすバスケットボールのチームとして活動しています。佐賀県内で練習を行っていますので、ぜひ練習にもお越しいただければと思います。

【DJ YUYA】プレイをする者、そして支える者、色んな関わり方ができることですよね？

【西田副会長】そうですね、私も普段若い選手にも言っているんですがプレイヤーだけではバスケットは出来ないんだと、たくさんの方、審判のカやオフォシャルの方などそこにしっかり関連して、そういう方々がいるからこそこうして自分たちがプレイすることができるということを有りがたいと思うようにしてください。

【DJ YUYA】この時間は、九州車いすバスケットボール連盟副会長の西田さんと、車いすバスケットボール佐賀県代表チームヘッドコーチの吉田選手からお二方にお話しを伺いました。ありがとうございました。

【西田副会長・吉田ヘッドコーチ】ありがとうございました！

## エンディング

FM佐賀 特別番組 SAGAパラスポ2026「車いすバスケットボール」。

今月１０月１４日、鹿津市文化体育館で行われた大会の模様をお届けしてきました。いかがだったでしょうか。

佐賀県独自のパラスポーツの全国大会、第２回SAGAパラスポ2026は来年３月まで、県内各地で開催が行われています。

次回は、１１月２２日(日)「フライングディスク」、鹿島市陸上競技場で行われFM佐賀 公開録音のMCには椛木梨人さんがお前備します。

この日は、福岡で活躍するアイドルグループ「ひびのこづえ」から

研究生の選抜ユニット「BudLab」(バドラブ)の「ラブエル佐賀」がライブをおこなう予定です。

ラストは、その「BudLab」(バドラブ)で「後ろを振り返らず、新しい世界へ飛び出そう」という歌詞が入ったパーソナリティソング「Let's We're Go！」を聴きながらお別れです。

大会の詳しいスケジュールや内容は、第２回SAGAパラスポ2026公式HPをチェックして下さい。

HPには、佐賀県のスポーツシーンを支えるボランティア「サガンティア」の募集情報も掲載されています。

きょうのDJを聴いて、興味が湧いた方は、ぜひ、その一歩を踏み出してみてはいかがでしょうか？

FM佐賀 特別番組 SAGAパラスポ2026「車いすバスケットボール」

この番組は「佐賀県」の提供でお送りしました。

ご案内はD J YUYAでした！